



JFE

JFEグループ ESG説明会

2020年10月8日

JFEホールディングス株式会社

1. JFEグループの果たすべき役割と目指すべき未来像
2. 鉄の価値
3. JFEグループのCSR重要課題（マテリアリティ）
4. JFEグループの環境（E）課題への取り組み
5. JFEグループの社会（S）課題への貢献
6. JFEグループのガバナンス（G）
7. 近年の社外評価

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

JFEグループの果たすべき役割と 目指すべき未来像



JFEグループの果たすべき役割と目指すべき未来像

JFE

企業理念

常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。

果たすべき 役割(使命)

鉄を中心とする事業を通じて、あらゆる産業と人々の暮らしを支え、
社会の発展および課題解決に貢献していくこと。

取り巻く経営環境

国際的な景気変動

新型コロナウイルス感染症の拡大

国内少子高齢化の進行

世界的な保護主義の流れ

地球環境に対する危機意識の高まり

etc.

経営環境の大きな変化に柔軟かつ適切に適応

目指すべき姿

持続的な成長による経済的価値の創出（経済的持続性）

事業を通じた持続的な社会課題解決への貢献（環境的・社会的持続性）

2つの持続性を兼ね備え、長期にわたって価値を提供し続ける
強靱な企業グループ。



JFE

JFEグループの事業を通じた持続的な社会課題解決への貢献

「鉄」という素材を中核に、鉄鋼、エンジニアリング、商社などの広い事業領域で培った「グループの総合力」を活かし、社会やお客様のニーズに応じたソリューションを提供



自動車用鋼板



橋梁、橋梁用鋼材



食器・厨房機器用鋼板



都市環境プラント



バイオマス発電設備

持続的な 社会課題解決 への貢献

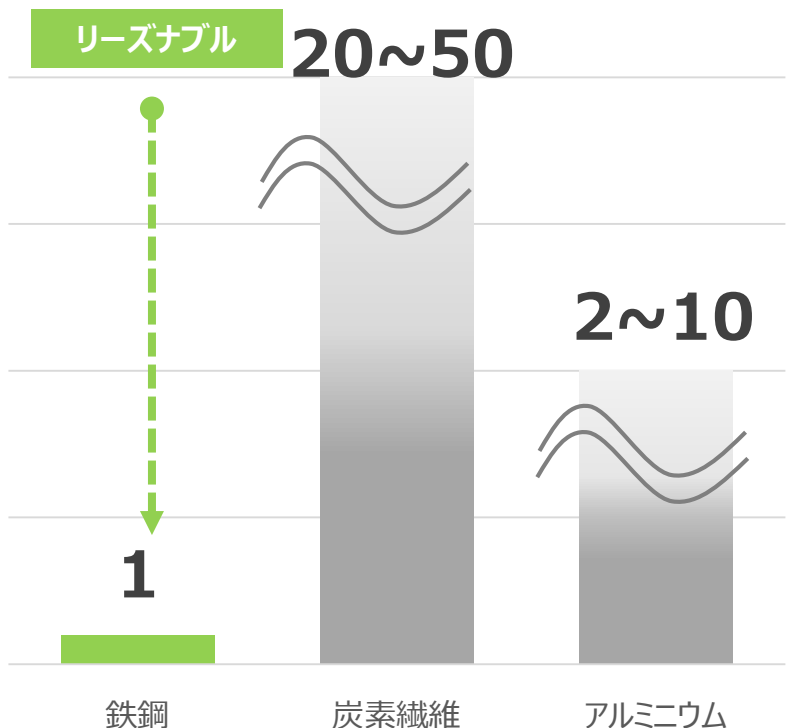
- 自動車・船・家電などの機能向上による快適な暮らしの実現
- 土木・建築分野の発展を通じた強靱なインフラの構築
- 安定的なエネルギー確保や再生可能エネルギーの普及による持続可能な社会の実現
- 環境配慮型商品の開発・提供と資源循環の促進
- CO₂削減への取り組みによる地球規模の気候変動問題解決への貢献
- 人材の育成、多様な人材が能力を最大発揮できる職場環境の実現
- 地域社会との共生・共栄 など

鉄の価値

低コストで大量生産が可能

鉄は、豊富な埋蔵量と長年の技術開発により、**リーズナブルな価格**で、**安定的に大量供給**され、社会の持続的な発展に貢献

■ 価格の比較

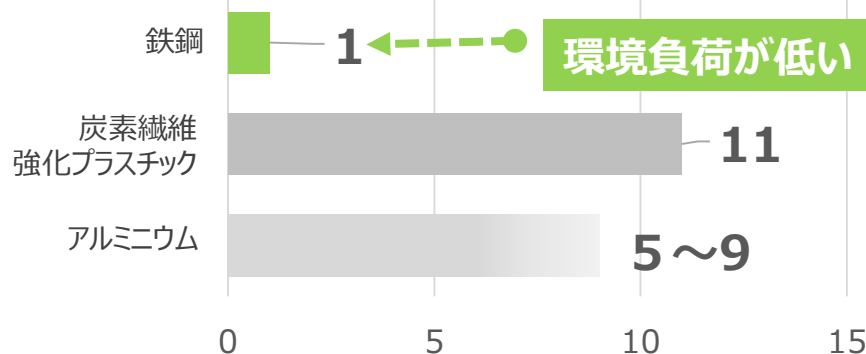


当社調べ

価格：単位重量あたりの価格を鉄を1として他素材と比較

他素材に比べ、環境負荷が低い

■ 製造時の温室効果ガス排出量 ※

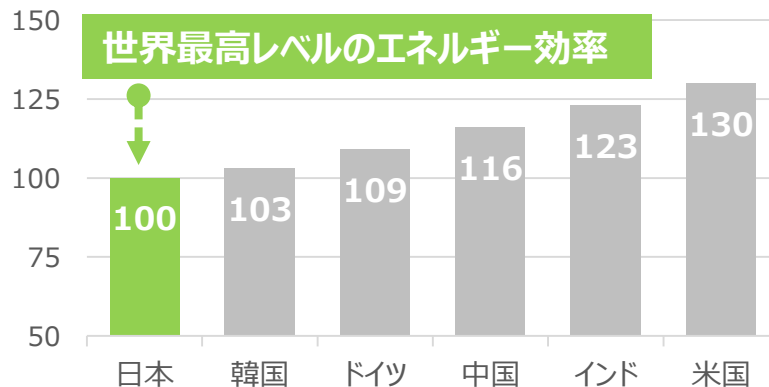


環境負荷が低い

※ 原料採取から工場出荷まで。単位重量あたりの温室効果ガス排出量を鉄を1として他素材と比較

日本の鉄鋼業はエネルギー効率No.1

■ 鉄1トンの生産に必要なエネルギー量



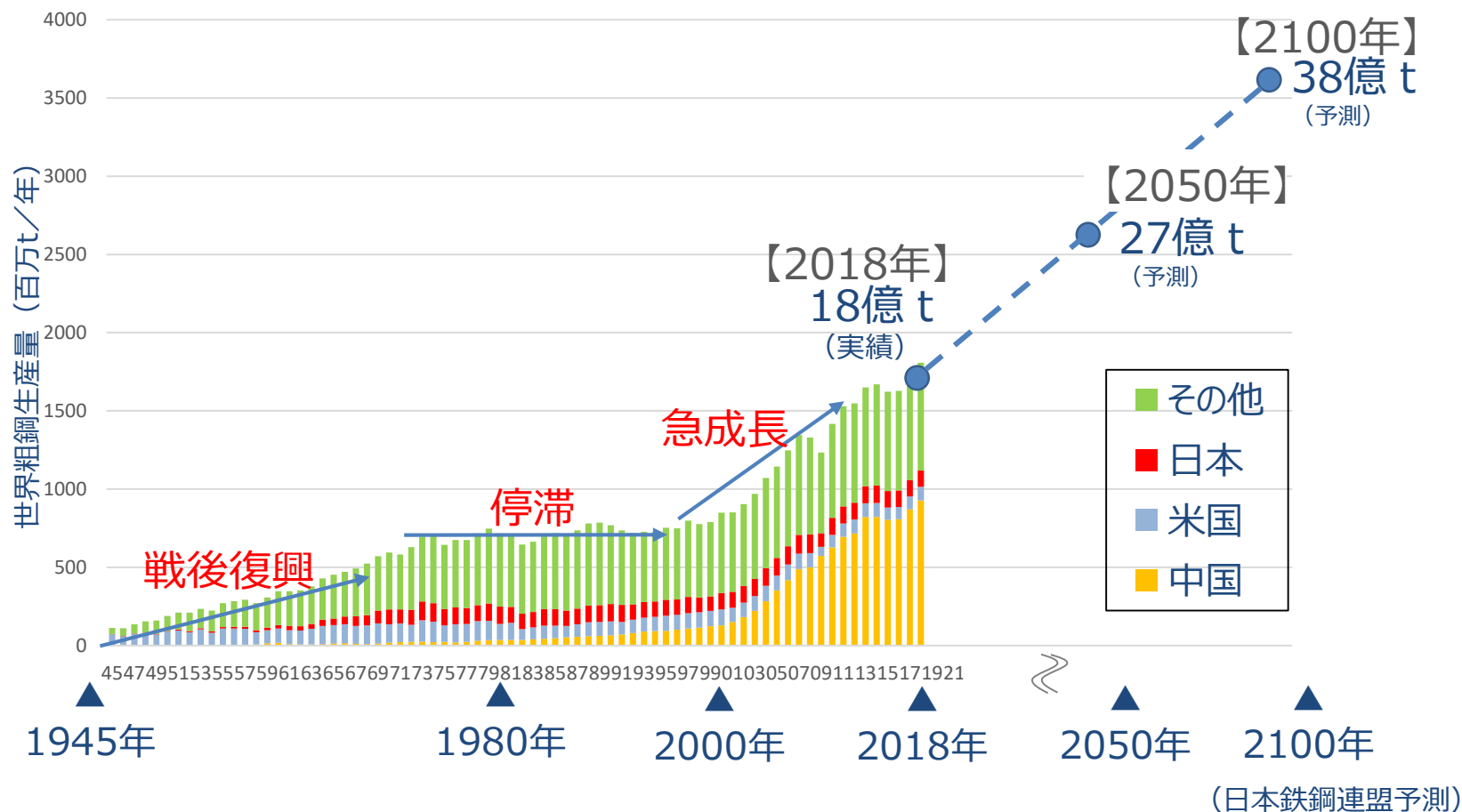
世界最高レベルのエネルギー効率

出所：RITE「2015年時点のエネルギー原単位の推計」(指数化は日本鉄鋼連盟)

グローバルベースでの成長可能性

新興国の経済成長に伴い、

世界全体の鉄鋼需要は今後も成長が続く見通し

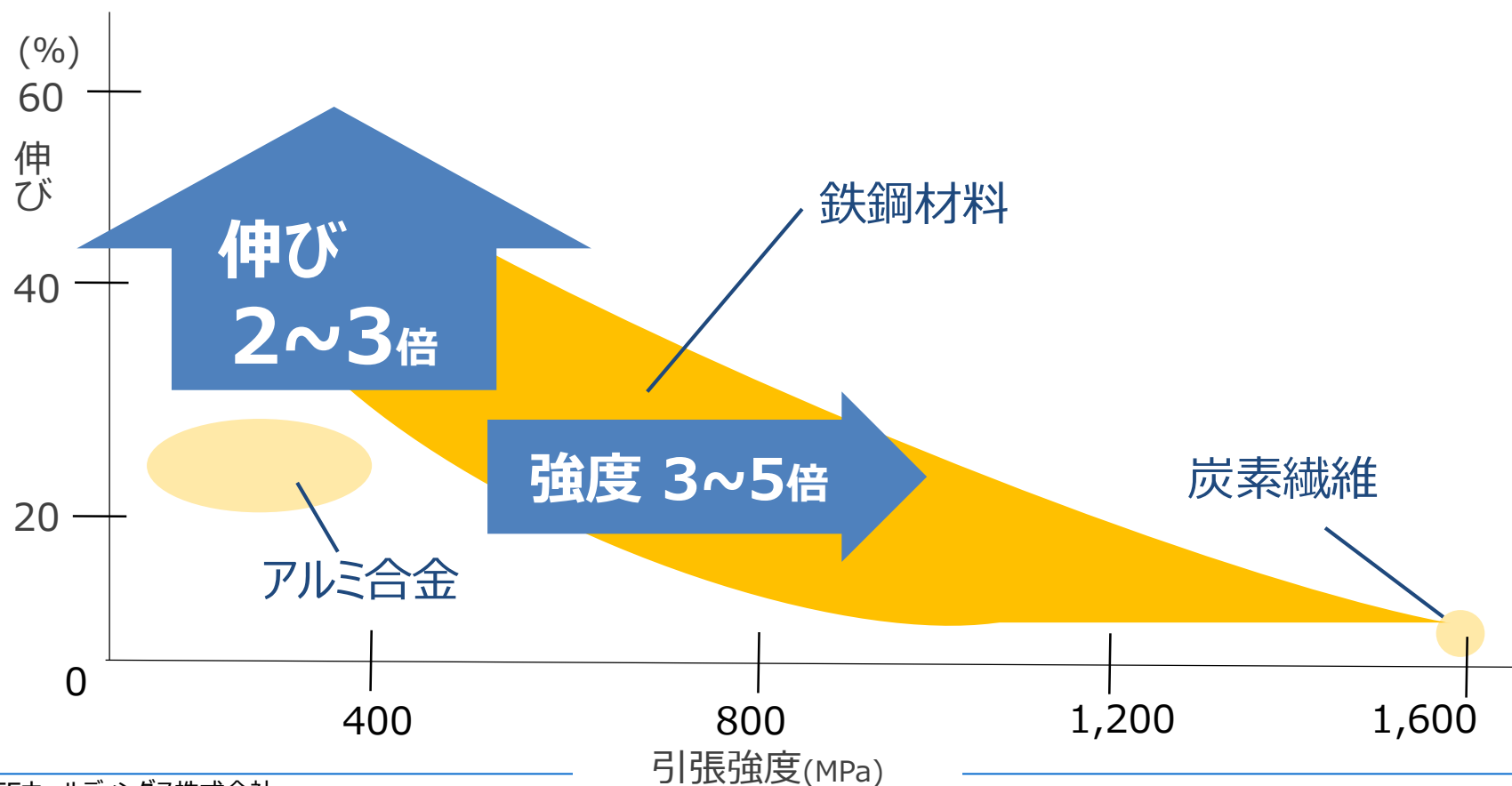


(日本鉄鋼連盟予測)



進化の可能性を秘める

- 鉄は、同じ強度のアルミニウムと比べて2~3倍の伸び、同じ伸びなら3~5倍の強度になる
- 鉄にはまだまだ**進化のポテンシャル**があり、**社会の新たなニーズが鉄を進化させる**





リサイクル：優れたリサイクル性

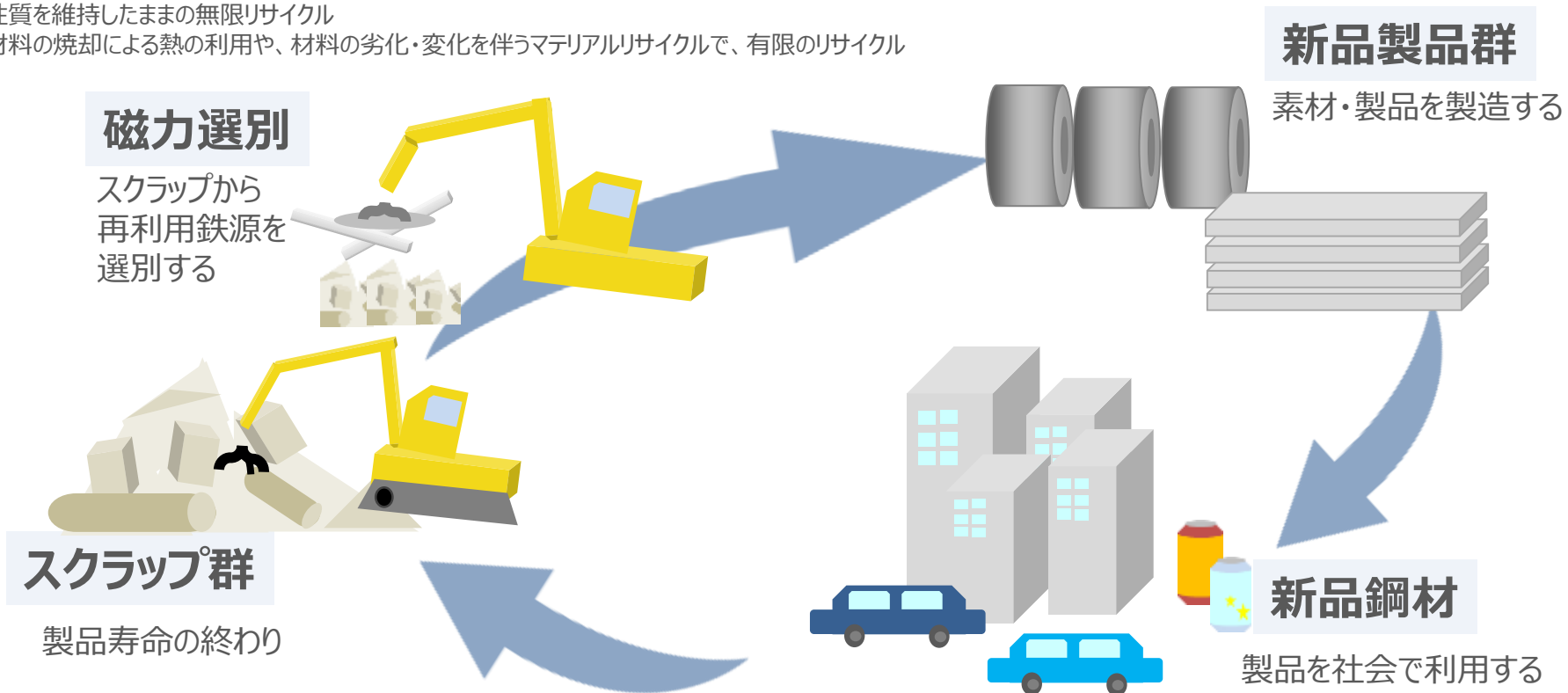
JFE

鉄のクローズド・ループ・リサイクル*1

- 鉄の優れた特性と、高効率な分離・回収により、**高品質・高機能な製品に何度でも生まれ変わる**
- 新たに投入される天然資源消費量の削減、さらに環境負荷物質排出量の低減、廃棄物の削減が図られることから、サステナビリティの点でオープン・ループ・リサイクル*2よりも優れている
- ライフ・サイクル・アセスメントを用いてライフサイクル全体で評価すると、**地球温暖化などの環境影響はリサイクル性に優れた素材ほど小さくなる**

*1 性質を維持したままの無限リサイクル

*2 材料の焼却による熱の利用や、材料の劣化・変化を伴うマテリアルリサイクルで、有限のリサイクル





JFEグループのCSR重要課題 (マテリアリティ)



JFEグループが取り組むCSR重要課題

JFE

以下の5分野13項目をCSR重要課題に位置づけ、取り組みを推進

課題分野		CSR重要課題
事業活動	良質な商品の提供とお客様満足度の向上	商品安定供給
		品質確保
		研究開発の推進
		お客様ニーズへの対応
	地球環境保全	環境配慮型商品の開発と提供
		地球温暖化防止
		大気環境の保全
		資源循環の推進
	労働安全衛生の確保	労働災害の防止
		社員とその家族の健康確保
	多様な人材の確保と育成	ダイバーシティ&インクルージョン
		人材育成の推進
事業活動の基本	コンプライアンスの徹底	企業倫理の徹底と法令遵守

JFEグループの
持続的な成長と
企業価値の向上

課題への取り組みが
目指すもの

持続的な社会
の実現に貢献

コーポレートガバナンス（公正性・公平性・透明性を確保）

人権の尊重・人権意識

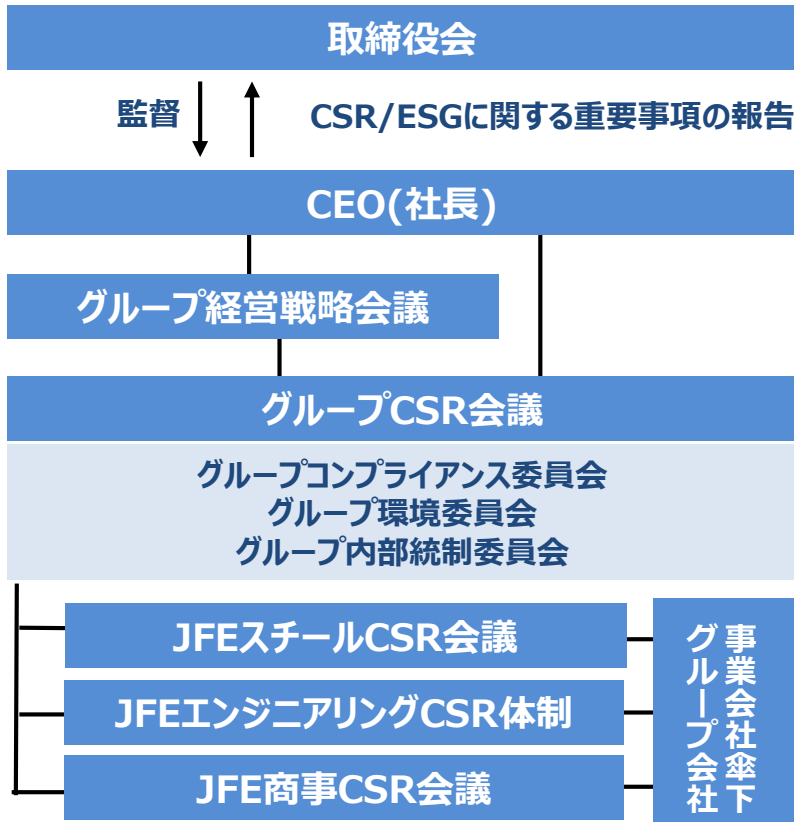


JFEグループのCSRマネジメント

JFE

- ・ グループCSR会議を設置し、グループ全体のCSRの取り組みを監督・指導
- ・ 重要課題はグループ経営戦略会議で審議し、取締役会へ報告
- ・ 取締役会は、KPIの設定や取り組み状況等の重要事項の議論を通じCSR活動を監督

JFEグループのCSR推進体制



グループCSR会議テーマ

コンプライアンス、環境、気候変動、内部統制、人事労働、安全・防災、社会貢献、情報セキュリティなど

- グループとしての方針審議
- 方針の浸透状況の監督
- 課題や発生した問題への対処事例などの情報共有、水平展開

取締役会で取り上げたテーマ

- ・ CSR・ESG課題への取り組み
- ・ CSR重要課題に対するKPIの設定、取り組み状況
- ・ 気候変動に関する取り組み
- ・ 従業員意識調査の結果
- ・ 各社の安全活動
- ・ 内部通報制度の運用状況
- ・ CSR報告書、統合報告書の発行



JFEグループの 環境（E）課題への取り組み



JFEグループの気候変動問題への取り組み強化①

- 大量のCO₂を排出する鉄鋼製造プロセスを抱えるJFEグループにとって、**気候変動問題は事業継続の観点から極めて重要な経営課題**
- 異常気象の顕在化など、**地球規模での気候変動問題への対応が急務**

**2020年を気候変動対応推進の節目の年と位置づけ、
JFEグループとしてのCO₂削減目標を掲げることを決定**

- 企業理念「**常に世界最高の技術をもって社会に貢献します**」のもと、気候変動問題の解決に向け、新技術の研究開発などの取り組みを加速
- 事業リスクへの対応だけでなく、**持続可能な社会の実現に貢献する事業機会**の観点からも取り組みを推進し、企業価値の向上を図る



JFE

JFEグループの気候変動問題への取り組み強化②

JFEグループのCO₂排出量削減目標

2030年度
に向けて

鉄鋼事業において2030年度のCO₂排出量を2013年度比で20%以上削減することを目指す

JFEスチール社長直轄プロジェクトチームを立ち上げ、様々な施策の検討を開始

日本鉄鋼連盟の低炭素社会実行計画には主体的に参画

2050年に
に向けて

社会全体の脱炭素技術インフラの整備が進むことに合わせて、
**2050年以降のできるだけ早い時期に、
JFEグループのカーボンニュートラルを実現**すべく取り組む

2050年までのできるだけ早い時期にカーボンニュートラルを実現する新技術のメニューの提示が可能となるよう研究開発を加速



JFEグループの気候変動問題への取り組み強化③

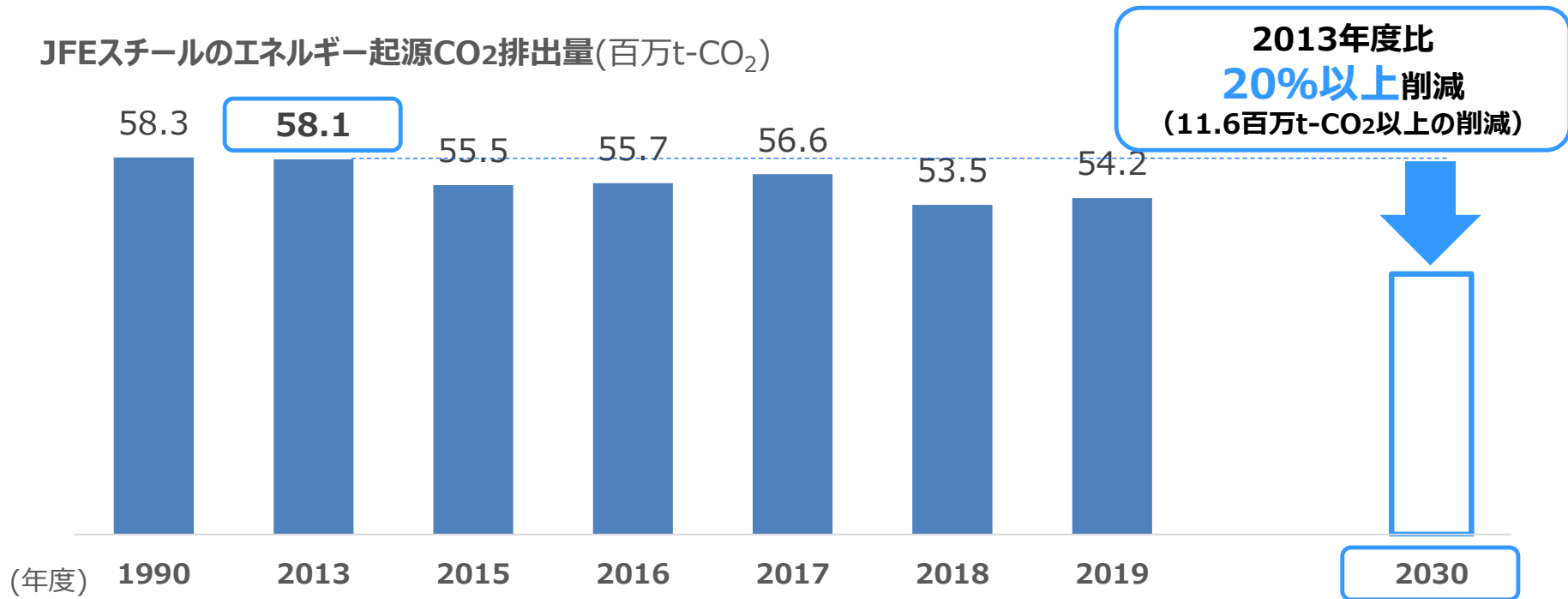
JFE

2030年度
目標について

- 国の2030年度削減目標（産業部門のエネルギー起源CO₂削減：13年度比 約6.5%）を大幅に上回る目標で取り組みを推進
- 生産体制の見直し※の影響も織り込むが、それだけでは目標は達成できない。CO₂削減に有効な既存技術や、多くの開発中の技術を最大限活用し大幅削減に取り組む（CCS等の超革新技术による削減は含めていない）

※23年度を目途に京浜地区の上工程と熱延設備を休止（20年3月27日リリース「国内最適生産体制の構築に向けた構造改革の実施について」）

JFEスチールのエネルギー起源CO₂排出量(百万t-CO₂)



※1 2019年度の購入電力のCO₂排出係数：日本鉄鋼連盟の低炭素社会実行計画における2018年度購入電力のCO₂排出係数
 ※2 日本鉄鋼連盟の低炭素社会実行計画における2018年度購入電力のCO₂排出係数を適用しているため、2018年度数値を更新
 ※3 2013年度から2016年度は、JFE条鋼(株)仙台製造所のデータを加えて算出

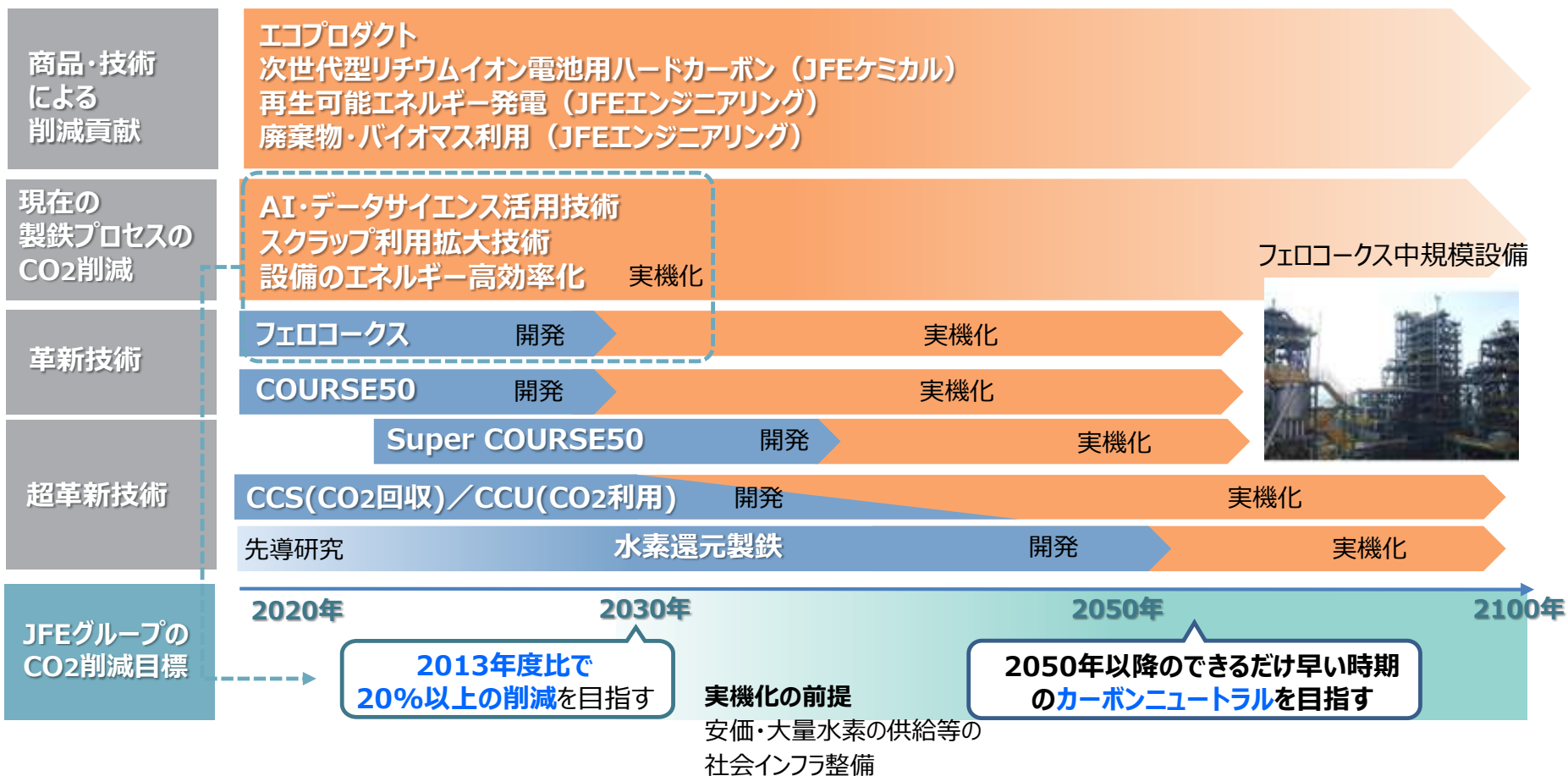


JFEグループの気候変動問題への取り組み強化④

JFE

2030年に向けて： 現在の製鉄プロセスのCO₂削減や、開発中のフェロコークス製造技術の適用拡大等により、20%以上の削減を目指す

2050年に向けて： 安価で大量な水素供給等の社会インフラが整備されれば、速やかに実用化に繋がられるよう、様々な革新的技術の開発を推進

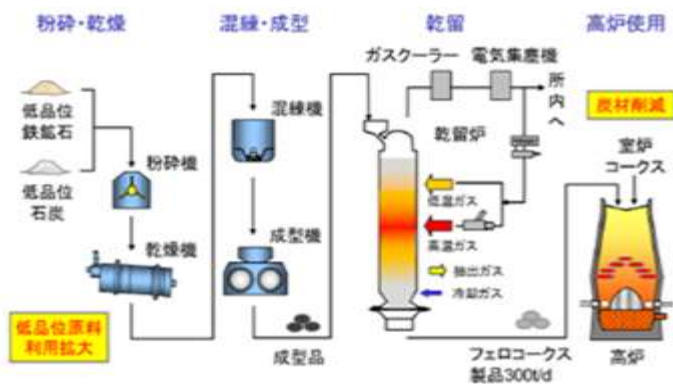


世界に先駆けて脱炭素化を実現すべく、革新技術の開発を推進

革新技術 フェロコークス

- 低品位の石炭・鉄鉱石から製造される画期的な高炉原料
- 内部の金属鉄の触媒作用により高炉で使用するコークス量を大幅削減する省エネルギー技術
- 製造量300 トン/日規模の中規模設備を西日本製鉄所（福山地区）に建設完了し、**10月から試験運転**を開始予定
- **製鉄プロセスにおけるCO₂排出量とエネルギー消費量を約10%削減**するとともに、**低品位原料の利用も拡大**

■ 中規模設備プロセスフロー



■ 中規模設備の外観



■ フェロコークスと粒子断面





鉄鋼事業の取り組み② 高炉操業のAI制御

JFE

全高炉にデータサイエンス技術を導入

- 国内に保有・稼働する全高炉にCPS（サイバーフィジカルシステム）の導入を推進
- 予測困難であった炉内通気異常や炉内熱状態の予測を可能に

炉況の把握、異常予知検知

安定かつ高効率な操業を実現

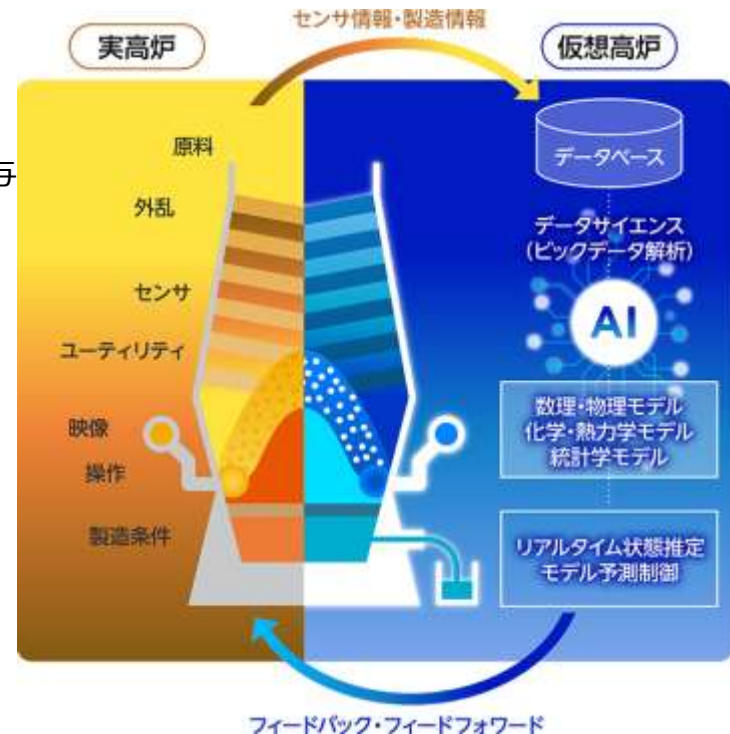
高炉のエネルギー消費量の削減に寄与

製鉄所から排出するCO₂の削減

CPS（サイバーフィジカルシステム）とは

- ・フィジカル空間(実際の設備や製品)に関する莫大なセンサー情報(ビッグデータ)をサイバー空間に集約
- ・各種手法で解析した結果をフィジカル空間にリアルタイムにフィードバック
- ・現実では見えない設備の内部状態の把握や将来予測を操業にフィードバックすることで、生産性向上、安定性に寄与

■ 高炉CPSの概念図





鉄鋼事業の取り組み③ CCS/CCU

JFE

超革新技术 CCS (CO₂回収) /CCU (CO₂利用)

- COURSE50の一環として、高炉から発生するCO₂を分離・回収する技術開発を推進
- 近年は、高炉ガスから分離・回収したCO₂を有価物に変換し有効利用するための研究開発に、鉄鋼メーカーの中でいち早く取り組み

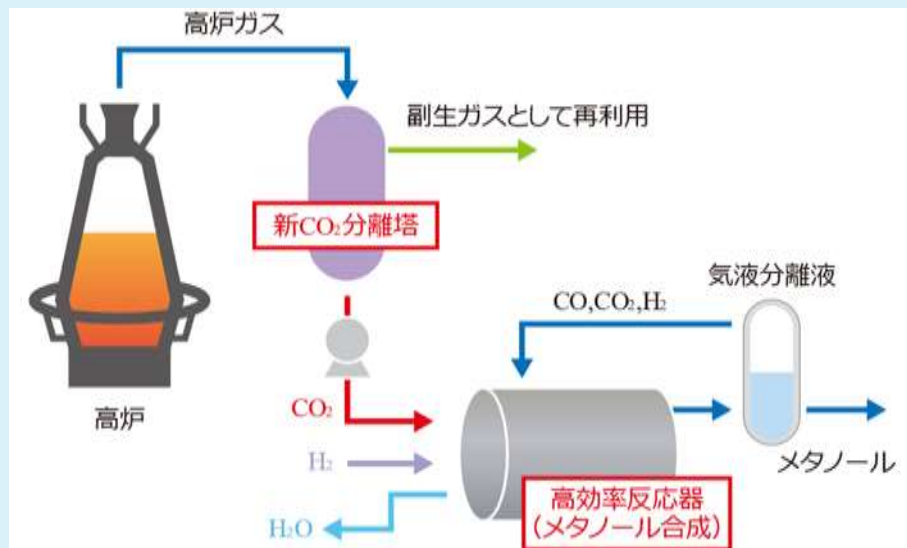
- NEDOプロジェクト※1の一員としてCCUに関する研究開発を推進
- RITE※2と共同で高炉ガス中のCO₂を分離・回収し、CO₂をメタノールに合成する技術開発を推進

COURSE50の研究開発で
培った技術をCCU開発に活用

- ※1 (国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構
「次世代火力発電等技術開発/次世代火力発電
基盤技術開発/CO₂ 有効利用技術開発」プロジェクト
- ※2 (公財) 地球環境産業技術研究機構

CCS : Carbon Capture and Storage
CCU : Carbon Capture & Utilization

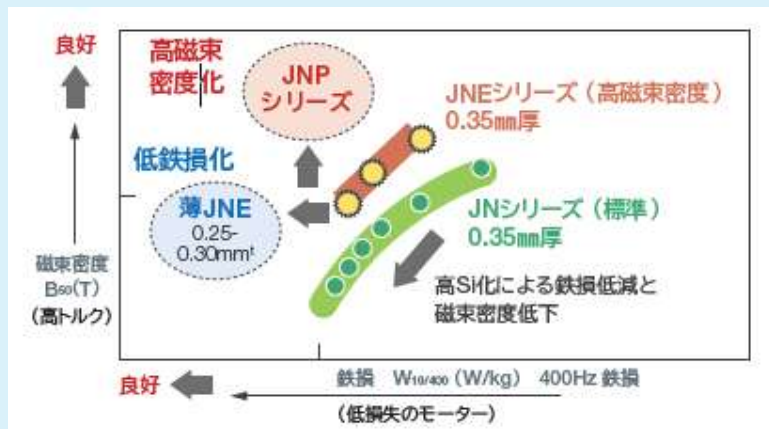
CCU技術の概念図





鉄鋼事業の取り組み④ 商品・技術による削減貢献

EVモーター用電磁鋼板



当社の強み

- 世界トップクラスの競争力を持つ極薄電磁鋼板
- 日系・欧米系主要自動車・部品メーカーを網羅するサプライネットワーク

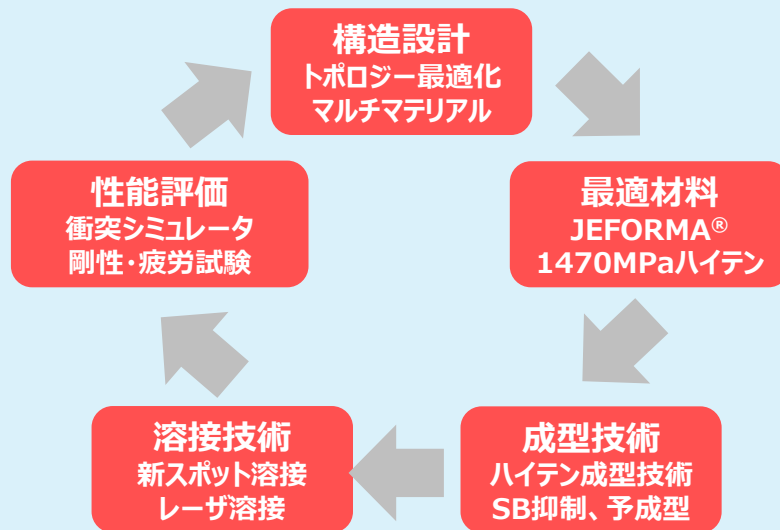
- 電動車の中核部品であるモーターの鉄心材料として多くの自動車メーカーに採用
- 低鉄損と高磁束密度のバランスに優れた商品ラインナップで **モーターの小型化・高効率化に貢献**

自動車用高張力鋼板(ハイテン)

- 的確な材料設計と利用技術提案で自動車の軽量化に貢献
- **1470MPa級冷延ハイテン**は、冷間加工による自動車部品の**引っ張り強度としては世界最高強度**

車体骨格の大幅な軽量化が可能

⇒ **自動車走行時のCO₂排出量が大幅に削減**

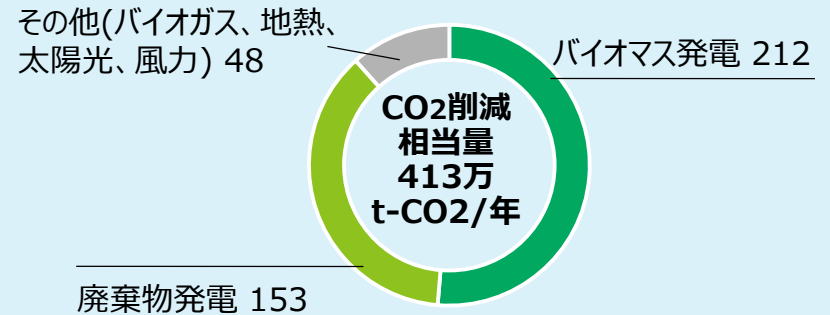




廃棄物やバイオマスによる発電、太陽光・地熱発電などの再生可能エネルギー事業により 年間約400万トンのCO₂削減に貢献

- **バイオマス・地熱・太陽光などの再エネ発電プラント**の**設計・調達・建設・運営事業**を展開
- 近年は子会社のアーバンエナジーによる**再エネ比率100%の電力プラン**の提供を開始
- 地方自治体と連携した地域新電力会社を設立し、再生可能エネルギーの供給を中心とした**エネルギーの地産地消も推進**

再生可能エネルギー関連プラントによるCO₂削減貢献相当量(2019年度)



最先端技術を活用し、廃棄物発電プラントの安定操業や発電量増加に貢献

- 全国のプラントの遠隔監視・操業支援・メンテナンスなどを行う**グローバルリモートセンター**を開設し**AI・ビッグデータを活用**した付加価値の高いサービスを提供
- 廃棄物発電プラントの運転では、**世界で初の焼却炉自動運転システムを実用化**





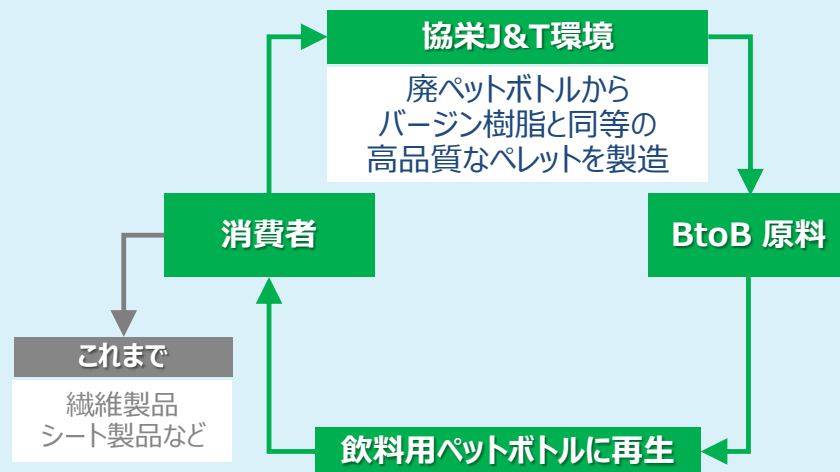
エンジニアリング事業の取り組み② リサイクル事業

JFE

- リサイクル事業を担うJ&T環境の**廃棄物焼却能力は首都圏最大規模**
- 使用済みペットボトルリサイクルなど、**新たなリサイクル事業の展開を加速**

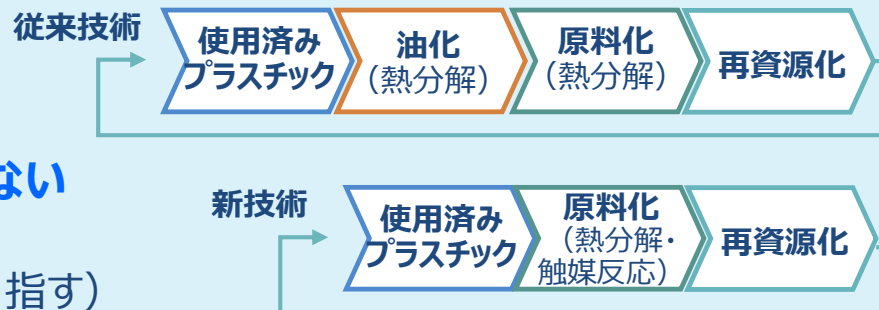
ボトル to ボトル (BtoB) シフトに貢献する国内最大のペットボトルリサイクル原料工場を新設

- J & T 環境と協栄産業が合併会社を設立
- 使用済みペットボトルから透明なペットボトル原料を製造
- **リサイクルペットボトル生産を原料供給面から支え、CO₂排出量の削減や天然資源の使用量抑制に貢献**



使用済みプラスチックの再資源化事業アールプラスジャパンに参画

- 業界を超えた12社による共同出資会社にJ&T環境が参画
- 米アネロテック社の技術を活用した**環境負荷の少ない効率的な再資源化技術開発**に挑戦 (2020年6月から事業開始、2027年の実用化を目指す)





商社事業の取り組み

JFE

- 気候変動問題の解決に貢献可能な超高張力鋼板、電磁鋼板などの鉄鋼製品や、スクラップなどの**環境配慮型商品を国内外で提供**
- **再生可能エネルギー分野**においても**鋼材商品やバイオマス発電燃料の提供に注力**

環境配慮型商品の提供

- **グローバル4極体制**(日本・米州・中国・アセアン)のもと、**モーターや変圧器の高効率化に貢献する電磁鋼板**などの鉄鋼製品を**加工まで含め安定供給を実現**



バイオマス燃料の供給

- **バイオマス燃料の安定供給を通じ、再生可能エネルギーの普及に貢献**
- JFEエンジニアリングが運営するバイオマス発電所への燃料供給など、グループで持続可能な社会の実現に向け貢献

再生可能エネルギー鋼材販売

- 再生可能エネルギー鋼材貿易チームを20年7月に発足
- 国内外の鋼材販売を強化、鋼材加工のSCM構築も検討



TCFDの提言に沿った分析・評価を通じ、JFEグループのガバナンスや事業戦略が、気候変動に関するリスク管理と機会獲得に適応していることを確認

TCFDが提言する4つの中核要素に関する適応状況

<p>ガバナンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> CSR重要課題として「地球温暖化防止」を特定し、円滑なPDCA・適切なマネジメントを推進 「グループ環境委員会」で対応方針を議論し、取り組みを監督・指導 重要課題はグループ経営戦略会議で審議、取締役会へ報告を実施し、活動を監督
<p>戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6次中期経営計画で「持続的な社会の実現」への貢献を重要な経営課題に位置づけ、「ESG課題への継続的な取り組み」を主要施策として取り組みを推進 シナリオ分析により、事業に影響を及ぼす重要な要因を選定、リスク・機会を特定・評価
<p>リスク管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> 担当執行役員などがリスクの認識に努め、「グループCSR会議」を通じ情報集約、管理を実施 適切な会議体において、リスクの発生頻度や影響の低減に向け対応方針を審議・決定
<p>指標と目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本鉄鋼連盟にて策定された低炭素社会実行計画の目標達成に向けた活動推進 日本鉄鋼連盟の「長期温暖化対策ビジョン」策定に中核的な立場で参画 JFEグループのCO₂削減目標を掲げ、CO₂排出削減に向け取り組みを積極推進



気候変動関連リスク・機会への適応（TCFD提言に沿った分析・評価）②

JFE

2つのシナリオ設定のもと、7つの重要要因を選定。気候関連リスク・機会を評価し、将来の事業戦略策定に活用

	2℃シナリオ	4℃シナリオ
シナリオ概要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大胆な政策と技術革新により気温上昇を2℃未満に抑制 ➤ 脱炭素社会への移行に伴う社会変化が事業に影響 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各国政策が実施されるも気温が4℃上昇 ➤ 温度上昇等の気候変化が事業に影響

	重要な要因		評価結果
2℃シナリオ	①鉄鋼プロセスの脱炭素化	機会	<ul style="list-style-type: none"> 既存技術に加えて革新技術を開発・実装
		リスク	<ul style="list-style-type: none"> 革新技術導入の投資負担は可能 公平なカーボンプライス導入によりコスト競争力維持
	②鉄スクラップ有効利用 ニーズの高まり	機会	<ul style="list-style-type: none"> スクラップ供給量に制約があり、転炉鋼生産は増加 電炉鋼生産、電炉エンジニアリングの拡大 スクラップ物流ビジネスが拡大
	③自動車向け等の 鋼材需要の変化	機会	<ul style="list-style-type: none"> EV化で電磁鋼板の需要増加 自動車販売台数の増加で特殊鋼需要増加 自動車用高張力鋼板の需要増加 鋼材のリサイクル性に再注目
		リスク	<ul style="list-style-type: none"> マルチマテリアル化の影響は限定的
	④脱炭素を促進する ソリューション需要の拡大	機会	<ul style="list-style-type: none"> 再エネプラントの一貫施工・運営 ごみ焼却炉、プラスチックリサイクルプラントの一貫施工・運営 CCU、CCS設備の一貫施工 低炭素ビジネスの海外展開
4℃シナリオ	⑤原料調達不安定化	リスク	<ul style="list-style-type: none"> 具体的対策を推進中 [代替、分散調達]
	⑥拠点損害	リスク	<ul style="list-style-type: none"> 洪水、渇水対策などは既に実施中 海面上昇による浸水影響は対応可能レベル
	⑦国土強靱化	機会	<ul style="list-style-type: none"> 鋼材、関連製品でインフラ強化

水リスク分析とその対応

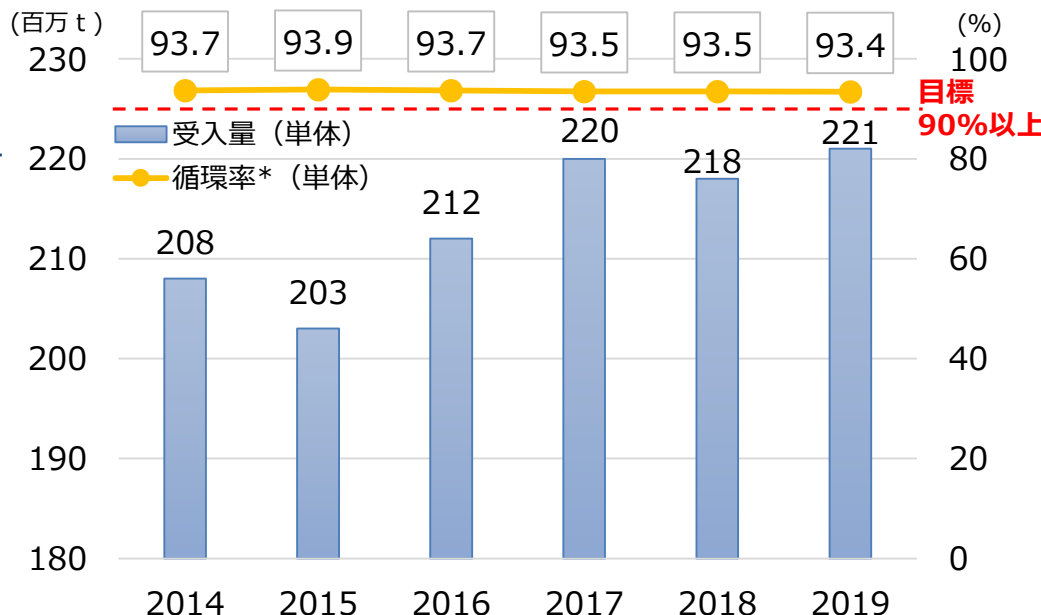
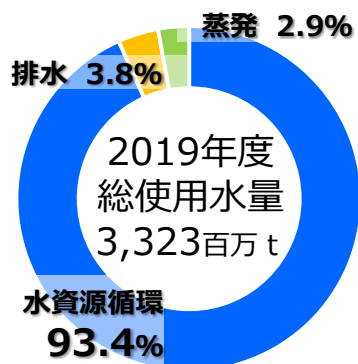
- 過去の製鉄所毎の渇水・洪水被害事例と気象庁予測などのデータをもとに、水リスクを抽出し、評価
- 気象状況により渇水や洪水リスクがあるため、気候に左右される製鉄所を特定し、BCPを策定するなどの対策を実施

水の循環利用

JFEスチールの水の循環率目標：90%以上

- 使用した水は生物処理や化学処理などの**徹底した浄化処理**を行うことで循環率を向上
- 循環率目標は**継続達成**

使用時の蒸発量を考慮すると、極めて高い循環率目標(90%)を2019年度も超過達成





JFEグループの 社会（S）課題への貢献



社会（S）に関する重要課題

JFE

変化の激しい社会において事業を継続し、新しい価値を創造し続けるために、
**多様かつ優秀な人材の確保・人材の育成・能力を最大限に発揮できる環境づくり・
安全な職場づくり・社員とその家族の健康**は不可欠

「**JFEグループ人材マネジメント基本方針**」に基づいた企業活動を行い、社員とともに成長していく

CSR重要課題の特定 「社会」に関する分野

	課題分野	CSR重要課題
事業活動	労働安全衛生の確保	労働災害の防止 社員とその家族の健康確保
	多様な人材の確保と育成	ダイバーシティ&インクルージョン 人材育成の推進



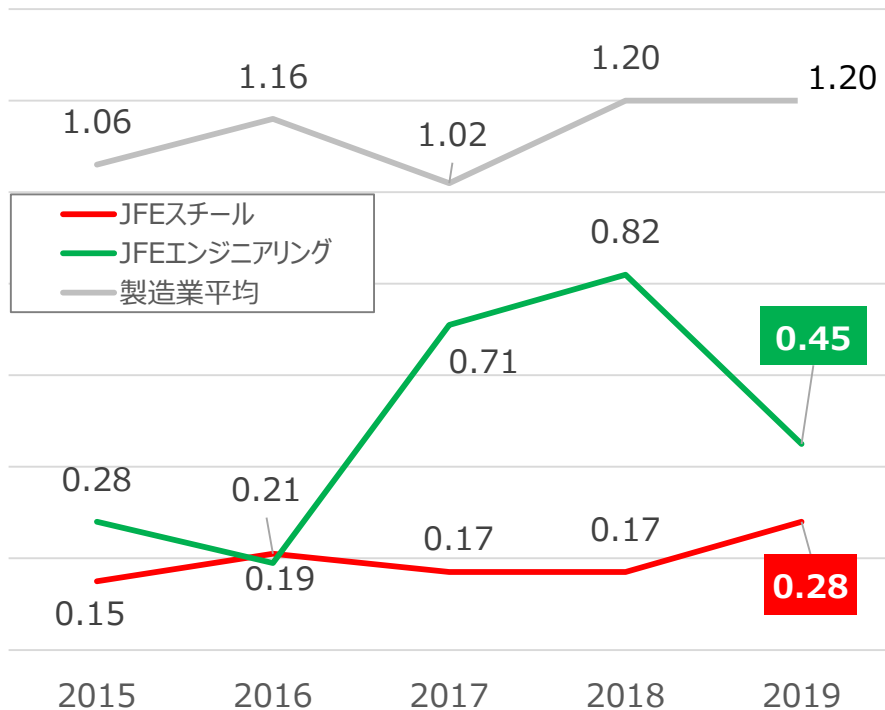
安全確保のための取り組み

JFE

労働災害の防止（安全成績 目標と実績）

- 休業度数率は**製造業平均を大幅に下回る**ものの、近年改善が見られない
- 2019年度死亡災害件数は、**JFEスチール4件、JFEエンジニアリング2件**
- **死亡災害の撲滅、安全成績の向上に向けた取り組みを徹底する**

休業度数率推移



2020年度 目標・KPI（抜粋）

共通	死亡災害件数「0件」
ST	休業災害度数率：～0.10 <重点施策> ・ ICTを活用した安全活動の展開 （例：安全モニタリングシステム導入、AI画像解析による安全作業支援等）
EN	休業災害度数率：～0.25 <先進的取り組み事例> ・ 安全体感車両やVRによる危険訓練体験を実施
SH	<重点施策> ・ 設備改善（安全センサー設備推進等）による人と稼働物の接触防止活動推進

集計範囲：[ST,EN]国内単体（協会社および請負会社含む） 休業度数＝休業以上災害発生者数/延労働時間数×1,000,000

ICTを活用した従業員の安全確保（安全支援システム）

- ①グループ内での音声・映像共有などの通信機能、②作業者の位置や動態情報・重機との接近検知・ガスなどの作業環境情報等の共有を通じ、作業者の安全確保に活用
- これらの情報はスマートフォンやクラウドを介して管理者へ共有





ダイバーシティ&インクルージョン

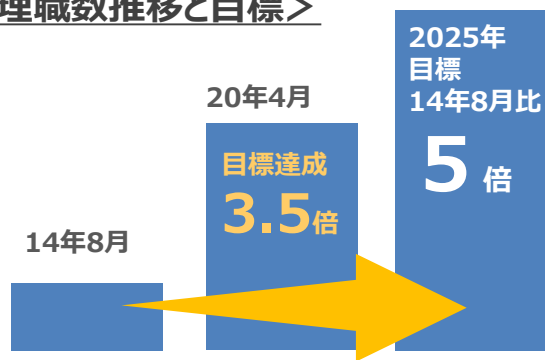
JFE

性別、国籍や価値観、異なるライフスタイルなど多様な背景を持つ従業員の能力を最大限に引き出すための取り組みを推進

女性活躍の推進

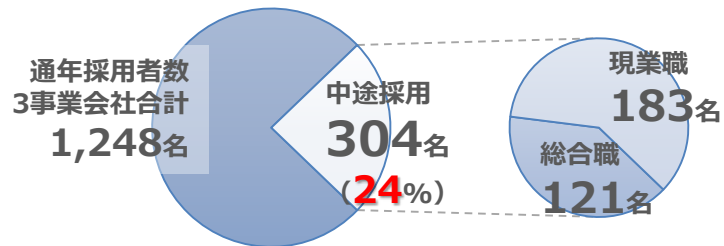
- 各事業会社に**ダイバーシティ推進室**を設置し、階層別研修や女性交流会などの啓発活動、事業会社間での好事例の水平展開、グループ共通の取り組みなどを展開
- 積極的な**女性従業員の採用**
ST: 全社で約400名の現業系女性社員が製鉄現場で活躍
- 法定水準を大きく上回る**育児支援制度の充実**
- 女性管理職登用**の目標設定と推進

<女性管理職数推移と目標>



多様な人材の確保

- JFEグループの持続的な成長を図るため、安定的な採用を実施
- 採用ソースを多様化**し、女性・外国人の採用および中途・通年採用を積極的に実施



意識啓発・研修会の実施

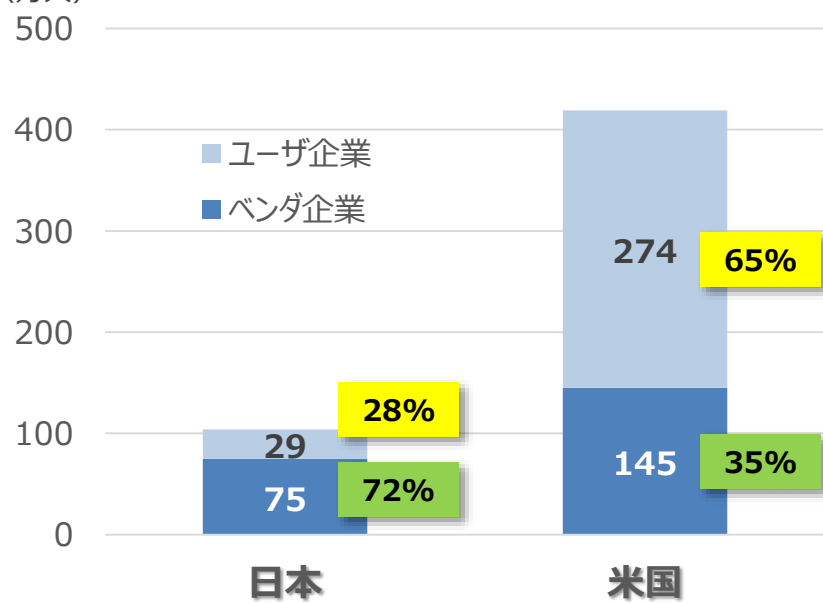
- マネジメント層への**ダイバーシティに関する意識啓発**の推進
- 女性社員へのリーダーシップ研修**や**講演会**の機会提供
- LGBTQ (性的マイノリティ) の尊重を目的に、JFEスチールにおいては各地区の人事担当者を対象に**LGBTQに関する知見を深めるための研修会**を実施



DX戦略を支える人材育成 (鉄鋼事業)

JFE

(万人) 日本と米国の情報処理・通信に携わるICT人材



出典：総務省 平成30年情報通信白書

- 製造・研究開発分野でDSを応用するためには、**鉄鋼業独自のフィールドに関する知識を持つことが不可欠**
- 昨今、データサイエンティストの**人材確保に向けた競争が激化**し、必要な人材を社外から確保するのは容易ではない

- 産業界での応用が急速に進む**データサイエンス(DS)技術**をいち早く業務プロセスに導入するために、**データサイエンティストを社内で独自に養成する体制を構築**
- 求められるレベルに応じた**ピラミッド型の階層的な教育体制**を確立
- 2020年度末に**社内データサイエンティスト350名程度**の養成を目指す

階層	対象	養成方法
① DS先駆者	<ul style="list-style-type: none"> 研究部門の研究員 製造部門のエンジニアの一部 	<ul style="list-style-type: none"> 学術機関への派遣 製造部門から研究部門への派遣
② DS伝道者	<ul style="list-style-type: none"> 製造部門のエンジニアの一部 	<ul style="list-style-type: none"> 実課題解決型教育
③ DS活用者	<ul style="list-style-type: none"> 技術系社員全員 	<ul style="list-style-type: none"> DSツール導入教育 DS全般教育
④ DS利用者	<ul style="list-style-type: none"> 事務系含む社員 	<ul style="list-style-type: none"> e-Learning

データサイエンティスト



コロナ禍を踏まえた従業員対応

JFE

従業員の安全・健康面への対応

2020年8月時点

		主な感染防止策	
JFEスチール	本社・支社	<ul style="list-style-type: none"> 在宅勤務の推奨、コアレスフレックス導入による時差出勤の推進 執務室へのパーテーション設置 サーモカメラによる入館時の検温実施 	製鉄所・製造所 <ul style="list-style-type: none"> 職場、食堂などへのパーテーション設置 ミーティングの分散開催による少人数化 休憩中の人と人との間隔確保
	本社・国内支社	<ul style="list-style-type: none"> 50%以上の在宅勤務体制 検温記録の徹底（毎日）、就業時のマスク着用厳守 お客様への検温の実施 	製作所・建設現場・操業事業所 <ul style="list-style-type: none"> 休憩所へのビニールシート設置 共有設備の利用制限 製作所は3班体制とし1Hr間隔の時差出勤
JFE商事	本社	<ul style="list-style-type: none"> フレックス制度を活用した時差出勤の実施 執務室へのパーテーション設置 毎朝出社時の検温励行 	他拠点 <ul style="list-style-type: none"> 社内会議のWeb化 サーモカメラによるお客様への検温実施
		<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り在宅勤務の実施（出社率上限：25%） 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅勤務の推奨(出社率上限：50%)

感染者発生時の対応

- 当社グループにて新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、所轄保健所のご指導のもと、
①当該社員が勤務していた職場および共有部分の消毒、②濃厚接触者のPCR検査を迅速に実施。
- 今後も新型コロナウイルス感染への対策と感染拡大防止への迅速な対応に努め、従業員をはじめ、すべてのステークホルダーの皆様の安全を最優先に、対応を継続してまいります。



JFEグループのガバナンス



取締役会における多様性への取り組み

JFE

◆ 取締役会の多様性の発展

- 2007年 社外取締役2名を招聘
- 2017年 取締役会の体制を変更
- 2019年 女性監査役就任（当社初）
- 2020年 女性社外取締役就任（当社初）

＜取締役会の規模の拡大と人材の多様化＞

1. JFEエンジニアリング・JFE商事の社長が取締役就任
2. 社外取締役・社外監査役を1名ずつ増員

社外役員比率:46% 社外役員6名(取締役3名、監査役3名) 社内役員7名(取締役5名、監査役2名)
(2020年9月現在)

＜社外役員構成＞

区分	氏名	主要な兼職	独立役員	主な専門性・バックグラウンド							取締役会諮問機関の委員就任状況		
				企業経営 経営戦略	技術	グローバル 経営	財務会計	法律	学識 経験者	行政 公共政策	指名委員会	報酬委員会	
取締役	山本正己	富士通株式会社 取締役 シニアアドバイザー	独立									委員長	委員
	家守 伸正	住友金属鉱山株式会社 相談役	独立										委員長
	安藤よし子	リソールディングス株式会社 社外監査役	独立									委員	
監査役	大八木成男	帝人株式会社 相談役	独立									委員	
	佐長 功	阿部・井窪・片山法律事務所 パートナー弁護士	独立										委員
	沼上 幹	一橋大学大学院 経営管理研究科 教授	独立									委員	委員



第三者機関による取締役の実効性評価

1. 実施形態

- 第三者機関が、従来社内事務局で実施してきたアンケート内容の確認と見直しを行い、結果の分析に関する支援を行った
- アンケートでは、取締役会の構成・運営、事務局の支援、連携体制、監督機能、取締役会および諮問委員会の議論の状況、株主、ステークホルダーとの関係などについての質問を実施
- アンケートの評価を踏まえ、取締役会で議論

2. 結果の評価

- 社外役員を含めて出席する役員が積極的に意見を述べる等、取締役会における議論がより活性化され、取締役会全体としての実効性は確保されていると評価
- 監査役による的確・公正な監査の遂行、取締役会における積極的な意見・質疑による審議のさらなる活性化等、監査役会設置会社としても有効に機能していると評価
- 今後さらに強化・充実すべき項目として、「ESG課題への関与」「グループ全体のリスク管理に関する監督機能」「経営計画について経営環境が激変した際の取締役会の対応充実」の3つのテーマを抽出

◆政策保有株式の保有に関する方針

JFEホールディングス コーポレートガバナンス基本方針改定（2020年6月）

- 原則として上場株式を政策保有株式として保有しない
- ただし、グループの事業の維持及び成長のために必要と判断した会社の株式については例外的に政策保有株式として保有する
- 上記方針に基づき、売却を推進

◆定期的な保有意義・便益やリスクの見直し

- 保有する政策保有株式については、定期的に保有意義および保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているかを取締役会で確認
- 保有意義が無くなった場合や株主利益の毀損リスクが発生する場合は売却



近年の社外評価




社外評価・外部表彰

JFE

SRI*インデックス名等	評価・選定期等
FTSE4Good Index Series, FTSE Blossom Japan Index	2020年7月時点  FTSE Blossom Japan FTSE4Good
CDP2019	2019年 【CDP2019評価】 気候変動:B、 水セキュリティ:A- サプライヤー・ エンゲージメント:A-
DBJ環境格付	2016年 
SOMPOサステナビリティ・インデックス	2012年~2020年  Sompo Sustainability Index

SRI*インデックス名等	評価・選定期等
SQEP (品質保証認証)	Supplier Quality Excellence Process ゴールドクラス認証 2017年~2020年 
DX銘柄2020	2020年 

※「攻めのIT経営銘柄」に過去5年連続選定

表彰名	表彰内容等
第23回環境コミュニケーション大賞優良賞	2019年9月に発行した「JFEグループCSR報告書2019」が優良賞を受賞。 (当社の入賞は初) 
省エネ大賞 経済産業大臣賞	JFEエンジニアリングが提供する「多拠点一括エネルギーネットワークサービス (JFE-METS)」が2019年度省エネ大賞の製品・ビジネスモデル部門の最高位である「経済産業大臣賞」を受賞。

参考資料



JFEグループの企業理念・行動指針

JFE

JFEグループは、世界最高の技術をもって、気候変動問題の解決をはじめとした地球規模の課題に取り組み、社会の持続的発展に貢献します

企業理念

常に世界最高の技術をもって社会に貢献します

行動規範

挑戦。柔軟。誠実。

行動指針

企業理念の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、以下の10項目について定めた「行動指針」を遵守

1

良質な商品・サービスの提供

2

社会に開かれた企業

3

社会との連携と協調

4

グローバル化

5

地球環境との共存

6

政治や行政との関係

7

危機管理の徹底

8

人権の尊重

9

働きがいのある職場環境

10

法令の遵守



JFEグループの環境マネジメント

JFE

環境理念・方針に基づき、「地球環境との調和」「地球環境の向上」を企業活動の中で実現

環境理念

JFE グループは、地球環境の向上を経営の重要課題と位置付け、環境と調和した事業活動を推進することにより、豊かな社会づくりをめざします。

環境方針

1. すべての事業活動における環境負荷低減
2. 技術、製品による貢献
3. 省資源、省エネルギー事業による貢献
4. 社会とのコミュニケーションの促進
5. 国際協力の推進

環境 マネジメント

- ・「グループ環境委員会」を設置し、環境目標の設定、達成状況のチェック等を実施
- ・特に気候変動問題など、経営にとって重要な課題については、グループ経営戦略会議でも審議し、さらに取締役会への報告を実施
- ・ ISO 14001 JFEスチール、JFEエンジニアリングのすべての生産拠点、JFE商事の主要な国内外事業所で取得
- ・ 環境監査、環境教育、環境会計の推進



① 人権の尊重と公平・公正な人材マネジメントの推進

すべての社員の人権を尊重するとともに、JFEグループ行動規範、企業行動推進の精神を実現する人材を育成し、公平・公正な人材マネジメントを行う

② 「人を育てる企業風土」の醸成と「働きがいのある職場」の構築

双方向のコミュニケーションの充実により、風通しの良い、人を育てる企業風土を醸成し、安全で魅力に富み、働きがいのある職場環境を構築する

③ ダイバーシティの推進

女性・外国人・高齢者・障害者などを含めた多様な人材が、その能力を最大限に発揮し活躍できる環境を整える

④ 優秀な人材の確保および育成の着実な実施

複雑化・多様化する変化の激しい経営環境のもと、グローバル競争を勝ち抜くため、多様かつ優秀な人材を安定的に採用し、技術力・現場力の強化に必要な技術・技能の蓄積と伝承、グローバル人材の育成を着実に実施する

本方針に基づき、グループ各社において実情に合わせた施策を展開



CSR重要課題と関連性の高いSDGs

JFE

事業活動を通じた「持続可能な開発目標 (SDGs)」

2015年9月に国連サミットで、持続可能な発展のために世界が共有して取り組む17のゴール「持続可能な開発目標 (SDGs)」が設定されました。グローバル社会の要請に対し、JFEグループは事業活動を通じた貢献を目指します。



CSR重要課題	関連性の高いSDGs
商品安定供給	7, 9, 10, 11
品質確保	
研究開発の推進	12, 13, 17
お客様ニーズへの対応	
環境配慮型商品の開発と提供	6, 7, 9, 12
地球温暖化防止	
大気環境の保全	13, 14
資源循環の推進	
労働災害の防止	3, 8
社員とその家族の健康確保	
ダイバーシティ&インクルージョン	4, 5, 8, 9
人材育成の推進	10
企業倫理の徹底と法令遵守	10, 16



CSR重要課題に対する目標・KPI ①

JFE

今年度は下記の課題を中心に、目標・KPIを更新 (目標・KPIを更新した課題のみ抜粋)

CSR重要課題	事業会社	目標・KPI	2019年度の実績	評価	2020年度 目標・KPI (昨年度からの変更箇所は赤字)
商品安定供給	ST	1.安定操業によるお客様への着実な商品供給 2.高炉安定化対策をはじめとする製造基盤整備の着実な推進	製造基盤整備の着実な推進等により、各製鉄所・地区の設備稼働が安定、前年度比で納期達成率が向上	○	1.環境変化による需要変動に臨機応変に対応、安定操業によるお客様への着実な商品供給 2.高炉安定化対策をはじめとする製造基盤整備の着実な推進
	EN	監理技術者有資格者の安定確保	高水準の売上高の中、監理技術者は安定的に確保できている	○	監理技術者有資格者の安定確保
	SH	流通加工分野に対する安定的な設備投資	商品の安定供給に向け、当年度に必要な投資を全て実行 【投資金額 (採択金額)】 増強投資：17億円 劣化更新・安全投資：20億円 システム投資：18億円	○	流通加工分野に対する安定的な設備投資



CSR重要課題に対する目標・KPI ②

JFE

CSR重要課題	事業会社	目標・KPI	2019年度の実績	評価	2020年度 目標・KPI (昨年度からの変更箇所は赤字)
品質確保	ST	第6次中期経営計画で策定した試験・検査信頼性の向上のための設備投資の着実な実施	6次中期目標である重点4項目の自動化率100%に向けた投資認可を2019年度中でほぼ完了（引張試験：96.7%、溶鋼分析：100%、自動車用鋼板板厚測定：100%、めっき付着量測定100%）	○	試験・検査信頼性向上のための設備投資を着実に実施し、重点4項目（引張試験、溶鋼分析、自動車用鋼板板厚測定、めっき付着量測定）の自動化率100%を目指す。
	EN	重大品質トラブルゼロ	重大品質トラブルゼロ	○	重大品質トラブルゼロ
	SH	グループ会社に対する品質監査の実施 国内外の製造系グループ会社30社に対し、年1回以上の品質監査を継続（監査実施率100%）	国内外の製造系グループ会社30社に対し、品質監査を計画通り、順次実施。なお、年度終盤に予定していた6社については、コロナ影響を考慮して計画を変更し2020年度へ延期。 監査実施率：80%（国内：14社、海外：10社）	○	グループ会社に対する品質監査の実施 国内外の製造系グループ会社 32 社に対し、年1回以上の品質監査を継続 （監査対象会社を30社から32社へ拡大）



CSR重要課題に対する目標・KPI ③

CSR重要課題	事業会社	目標・KPI	2019年度の実績	評価	2020年度 目標・KPI (昨年度からの変更箇所は赤字)
研究開発の推進	ST	第6次中期経営計画で策定した研究開発の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> 前年度同等額の研究開発費を投入し、新商品を計画通り商品化 データサイエンス技術を活用した最適操業技術を全社に展開 	○	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的研究開発の推進 DS活用技術開発により2020年度JDXC立ち上げ、高炉AI化、福山3焼結DS化、熱延全ラインJ-dscom適用を目指す 新商品・新技術開発：2020年度20件以上（2015-2020年度累計135件を目指す）
	EN	研究開発費の維持・拡大	維持・拡大できている 2017年度 38 億円 2018年度 41 億円 2019年度 47 億円（2018年度比15%増）	○	ICT活用、気候変動対策、プラスチックリサイクルを重点3分野として、技術開発に取り組む 【数値目標】研究開発費における重点3分野30%以上
環境配慮型商品の開発と提供	ST	第6次中期経営計画で策定した新商品・技術開発の着実な実施	当初の計画通り16件の環境配慮型商品を商品化	○	環境配慮型商品・技術のラインナップ拡充： 2020年度15件以上 （2015～2020年度累計105件を目指す）
	EN	-	-	-	地球環境保全に貢献する新規事業・商品ないし事業規模の拡大年1件以上 <ul style="list-style-type: none"> プラスチックリサイクル事業の推進 食品残さリサイクル事業の推進 家電、蛍光灯リサイクル事業の推進 再エネ由来の電力供給事業の推進 環境配慮型商品の新規開発・提供



CSR重要課題に対する目標・KPI ④

JFE

CSR重要課題	事業会社	目標・KPI	2019年度の実績	評価	2020年度 目標・KPI (昨年度からの変更箇所は赤字)
地球温暖化防止	ST	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本鉄鋼連盟低炭素社会実行計画のCO₂削減目標 ② 省エネルギー投資の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本鉄鋼連盟低炭素社会実行計画の2020年度目標に向けて計画通り進捗中 ② 省エネルギー投資の推進 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2030年度CO₂排出量を2013年度比20%以上削減を目指す ・ その実現のために2020年度内にプロジェクトチームを発足し実行シナリオを策定 ・ 「ゼロカーボン・スチール」の実現に向けたNEDO技術開発へ参画し、2020-2021年において長期の技術開発ロードマップを策定する ・ フェロコークスのパイロットプラントによる実操業試験を開始する
	EN	<ul style="list-style-type: none"> ① 商品・サービスの提供による地球環境保全への貢献 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 廃棄物発電プラントの普及 ➢ 木質バイオマス発電の普及 ➢ 上下水道施設の省エネルギー ➢ 地熱、太陽光、風力発電の普及 ➢ 再生エネルギー由来の電力供給 ② 工場、オフィスにおけるCO₂排出量削減 	<ul style="list-style-type: none"> ① 年2件の計画を上回り、廃棄物発電プラント3件、バイオマス発電プラント3件を納入 国内での当社納入プラント（稼働中）が寄与したCO₂削減相当量413万t/年 対前年度比1%以上の削減計画を上回り、13.7%削減 (2018年度：13,100t₂/年、2019年度：11,300t₂/年) ② 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①地球温暖化防止に貢献する商品・サービスの提供 年2件以上 廃棄物発電プラントの普及 木質バイオマス発電プラントの普及 消化ガス発電プラントの普及 地熱、太陽光、風力発電の普及 ②工場、オフィスにおけるCO₂排出量削減 対前年度比1%以上
大気環境の保全	ST	<ul style="list-style-type: none"> ① NO_x、SO_x排出量の低排出レベル維持に向けた取り組み ② VOC排出量：低排出レベル維持（200年度比30%減） ③ ベンゼン排出量：低排出レベル維持（1999年度比80%減） ④ ジクロロメタン排出量：低排出レベル維持（1999年度比40%減） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 燃焼管理の徹底によりNO_x、SO_x排出量の低排出レベル維持 ② VOC排出量：51%減 ③ ベンゼン排出量：93%減 ④ ジクロロメタン排出量：71%減 	○	<ul style="list-style-type: none"> ① NO_x、SO_x排出量の低排出レベル維持に向けた取り組み推進 ② VOC排出量の低排出レベル維持（2000年比30%減） ③ ベンゼン排出量の低排出レベル維持（1999年比80%減） ④ ジクロロメタン排出量の低排出レベル維持（1999年比40%減）
	EN	<ul style="list-style-type: none"> NO_x、SO_x排出量の低排出レベル維持に向けた取り組み推進 	<ul style="list-style-type: none"> 年間総量規制相当値を大幅に下回ったことから、低排出レベルは維持できている NO_x 178Nm³（18,000Nm³） SO_x 40Nm³（100Nm³） 	○	<ul style="list-style-type: none"> NO_x、SO_x排出量の低排出レベル維持に向けた取り組み推進【数値目標】 年間総量規制相当値を下回る NO_x : 18,000Nm³ SO_x : 100Nm³



CSR重要課題に対する目標・KPI ⑤

JFE

CSR重要課題	事業会社	目標・KPI	2019年度の実績	評価	2020年度 目標・KPI (昨年度からの変更箇所は赤字)
労働災害の防止	共通	グループ共通 死亡災害件数 「0件」	死亡災害 4件	×	共通 死亡災害件数「0件」
			死亡災害 2件		ST 休業災害度数率：～0.10 <重点施策> 1. 各事業所ごとに弱点を捉えた安全活動の強化 2. 安全衛生マネジメントシステムの再構築（ISO導入） 3. ICTを活用した安全活動の展開（例：安全モニタリングシステム導入、AI画像解析による安全作業支援等）
			—		EN 休業災害度数率：～0.25 <重点施策> 1. 高所作業は作業床/手すりの設置と安全帯 2. 吊荷周囲/重機稼働範囲からの人払い 3. 非正常作業時は設備/機械/工具の電源断 4. 現場巡視による声掛けと是正 <先進的取り組み事例> 安全体感車両やVRによる危険訓練体験を実施
					SH <重点施策> ・ 設備改善（安全センサー設備推進等）による人と稼働物の接触防止活動推進



CSR重要課題に対する目標・KPI ⑥

JFE

CSR重要課題	事業会社	目標・KPI	2019年度の実績	評価	2020年度 目標・KPI (昨年度からの変更箇所は赤字)	
社員とその家族の健康確保	ST	特定保健指導実施率：35% (2020年目標)	ST 特定保健指導実施率：56.9%	△	ST 特定保健指導実施率：60% (2023年目標)	
	EN	特定保健指導実施率：35% (2020年目標)	EN 特定保健指導実施率：28.9%		EN 特定保健指導実施率：35% (2020年目標)	
	SH	特定保健指導実施率：40% (2020年目標)	SH 特定保健指導実施率：36.8%		SH 特定保健指導実施率：40% (2020年目標)	
	共通	共通	配偶者検診受診率：60% (2020年目標)	ST 配偶者検診受診率：48.2%	△	共通 配偶者検診受診率：60% (2020年目標)
				EN 配偶者検診受診率：51.7%		
				SH 配偶者検診受診率：51.0%		



CSR重要課題に対する目標・KPI ⑦

CSR重要課題	事業会社	目標・KPI	2019年度の実績	評価	2020年度 目標・KPI (昨年度からの変更箇所は赤字)
人材育成の推進	共通	<ul style="list-style-type: none"> 技術力の向上と質の高い人材育成活動の推進 	ST 研修実績 研修総時間：1,197,045Hr	○	ST 一人当たり研修時間:40時間/年以上
			EN 各種教育制度を活用した人材育成 > 階層別研修 389名 > 海外PJ人材育成プログラム 2名		EN 一人当たり研修時間:20時間/年以上
			SH 技術力の向上と質の高い人材育成活動の推進 (階層別研修を行い、対象者の受講率100%)		SH 一人当たり研修時間:20時間/年以上 階層別研修を行い、対象者の受講率100%
		<ul style="list-style-type: none"> 人権啓発研修の受講対象予定者数に対する受講率100% 	ST 人権啓発研修受講率：99.98%	△	人権啓発研修の受講対象予定者数に対する受講率100%
			EN 人権啓発研修受講率：100%		
			SH 人権啓発研修受講率：100%		

評価基準

※グループ共通の評価については、各社で達成度が一番低い結果を総合結果とする。

目標の属性		○	△	×
定量的	単年度設定	100%以上達成	80%以上100%未満	80%未満
	中長期設定（複数年先の目標を設定した場合）	最終目標100%以上達成	最終目標達成に向け取り組み中。一定の成果がある（線形補間して80%以上）。	目標達成に向け取り組み中だが、成果に至っていない（線形補間して80%未満）。
定性的		目標達成。成果を出している。	目標達成に向け取り組み中。一定の成果がある。	目標達成に向け取り組み中だが、成果に至っていない。

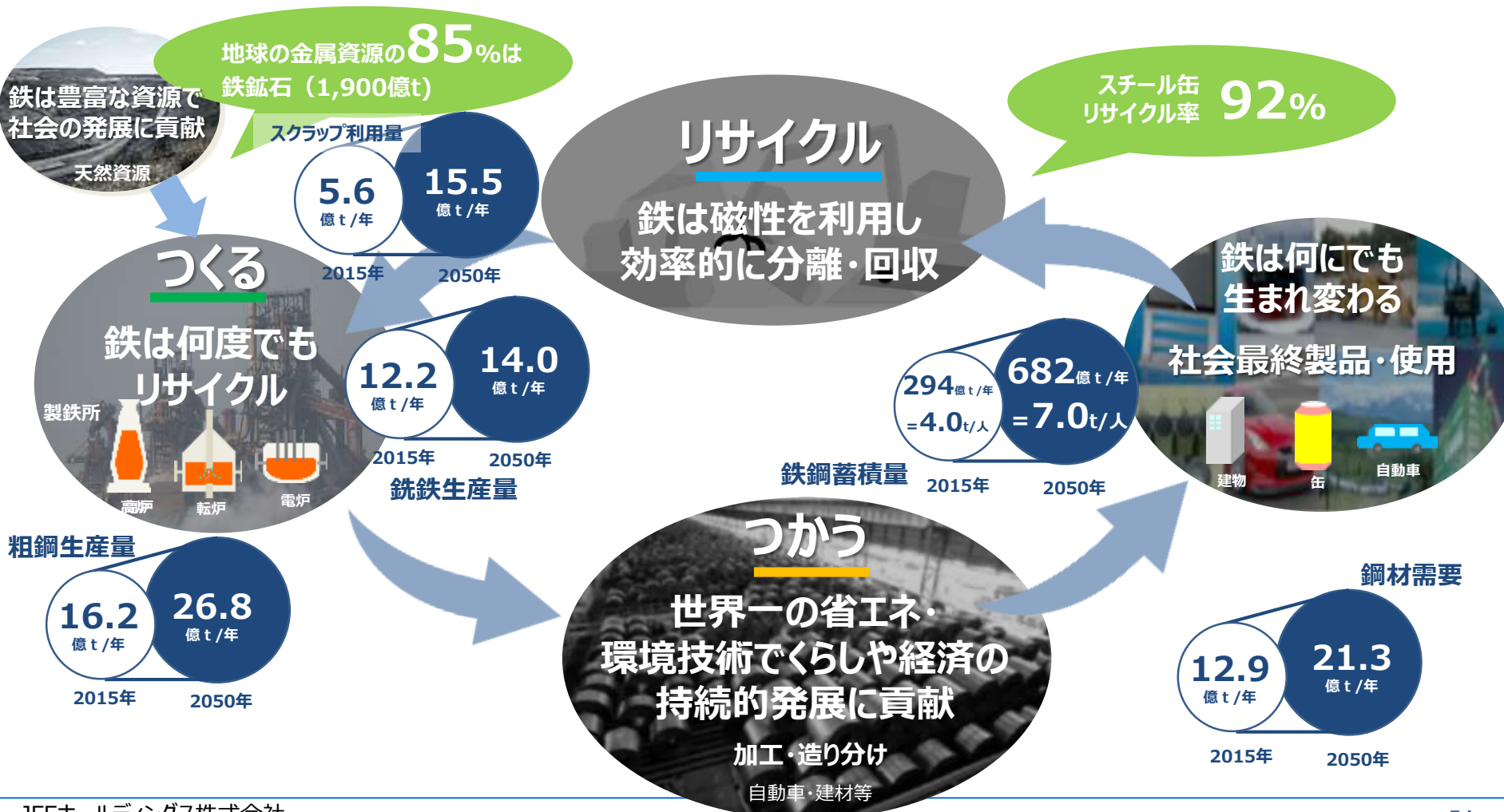


鉄のLCA (ライフ・サイクル・アセスメント)

JFE

「鉄」はその優れたリサイクル性から、高度なバリューチェーンを構築

LCAを用いてライフサイクル全体で評価すると、地球温暖化などの環境影響はリサイクル性に優れた素材ほど小さくなる





- 製鉄所と周辺地域の生態系への影響など、事業活動に伴う影響を最小化にとどめる取り組みを推進
- 海洋環境の再生に貢献する商品開発や地域への環境教育など、事業活動以外の場でも積極貢献

工場計画区域内の希少な植物を移植

- JFE扇島火力発電所1号機の更新工事にあたり、環境影響の予測・評価を実施
- 絶滅の危険が増大しているクゲヌマランの生育を確認し、計画区域内に類似した環境に移植



クゲヌマラン

地域の子もたちの生態系学習への貢献

- JFEスチール 知多製造所で、2014年よりホテルの鑑賞会を開催
- JFEエンジニアリング鶴見地区のビオトープ「トンボ池」を子供たちが生態系を学ぶ場として2009年から提供

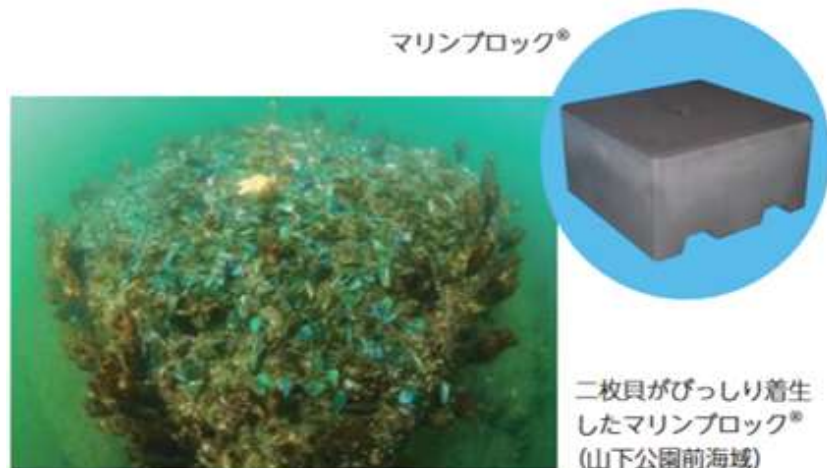


ホテルの鑑賞会の様子

鉄鋼スラグ製品を活用した海域環境改善

- 横浜市と共同研究により、鉄鋼スラグ製品「マリブロック®」を、生物付着基盤や海域環境改善材として有効活用
- 横浜市と連携して海環境改善と、海辺の賑わうまちづくりに向けた取り組みを推進

マリブロック®



二枚貝がびっしり着生したマリブロック® (山下公園前海域)






SRI*インデックス名等	選定内容等	評価・選定期等
<p>FTSE4Good Index Series, FTSE Blossom Japan Index</p>	<p>JFEホールディングスは2020年7月に、ロンドン証券取引所の子会社であるFTSE Russellが開発した投資指標である「FTSE4Good Index Series」および「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に選定されました。「FTSE4Good Index Series」はESGについて優れた対応を行っている企業が選定されており、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されています。また、「FTSE Blossom Japan Index」はESGの対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスで、GPIFが選定するESG投資指数の一つです。</p>	<p>2020年7月時点</p>  <p>FTSE Blossom Japan FTSE4Good Japan</p>
<p>CDP2019</p>	<p>CDPは、2000年に英国で設立されたESG評価機関（NGO）であり、機関投資家がESG投資に活用するために、CDP質問書として企業にESG情報の開示を求めています。CDPは現在、「気候変動」、「水セキュリティ」、「フォレスト（森林）」の3つを活動領域としており、それぞれ8段階で企業を評価しています。CDPが収集する情報量は世界最大の規模になっており（日本では現在300社以上が回答）、機関投資家や社会的責任投資の様々な指標に広く活用されています。JFEグループは、気候変動、水セキュリティの2領域の回答を毎年行っており、CDP2019の質問書に対しては情報開示の適正化を徹底し、高い企業評価を得ています。</p>	<p>2019年</p> <p>【CDP2019評価】 気候変動：B、 水セキュリティ：A- サプライヤー・ エンゲージメント：A-</p>
<p>DBJ環境格付</p>	<p>日本政策投資銀行（DBJ）の「DBJ 環境格付」は、DBJが開発したスクリーニングシステムにより企業の環境経営度を評価、優れた企業を選定し、得点に応じて3段階の適用金利を設定するという「環境格付」の専門手法を導入した世界初の融資制度です。2016年3月、JFEホールディングスはこれまでの高度な環境経営の取り組みが認められ、「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的と認められる企業」という最高ランクの格付を取得し、同制度に基づく融資を受けました。</p>	<p>2016年</p>  <p>DBJ 環境格付 2015</p>
<p>SOMPOサステナビリティ・インデックス</p>	<p>JFEホールディングスは、SOMPOアセットマネジメント社が運用する「SOMPOサステナビリティ・インデックス」（旧：「SNAMサステナビリティ・インデックス」）の構成銘柄に9年連続で選定されています。同指標はESGの評価が高い企業を採用しており、長期的な観点からの企業価値評価を通じて投資家の資産形成に寄与することを目的としています。</p>	<p>2012年～2020年</p>  <p>2020 Sompo Sustainability Index</p>







社外評価・外部表彰

JFE

SRI*インデックス名等	選定内容等	評価・選定期等
SQEP (品質保証認証)	JFEスチール西日本製鉄所(倉敷地区)とJFE 商事は、建設機械メーカーのキャタピラー社より2017年、2018年、2019年、2020年の4年連続で品質保証認証であるSQEP(Supplier Quality Excellence Process)のゴールドクラスの認証を取得しました。SQEPとは、ISO9001の要求事項とキャタピラー社独自の要求事項を審査し、プラチナ・ゴールド・シルバー・ブロンズの4段階の認証を行うものです。ゴールド認証は日本国内で数社しか取得しておらず、高炉メーカーの認証取得は世界初になります。	Supplier Quality Excellence Process ゴールドクラス認証 2017年 ~2020年 
DX銘柄2020	JFEホールディングスは、経済産業省と東京証券取引所が共同で発表する「攻めのIT経営銘柄」に5年連続で選定されています。同銘柄は、日本企業の中長期的な企業価値の向上や、競争力強化に結び付く戦略的IT投資の促進に向けた取り組みの一環として選定されるもので、本年より、デジタル技術を前提として、ビジネスモデルを抜本的に変革し、新たな成長・競争力強化につなげていく「デジタルトランスフォーメーション(DX)」に焦点を当てた「DX銘柄」に変更されました。「攻めのIT経営銘柄」に続き、当社はDXを積極的に推進する企業として「DX銘柄2020」に選定されました。	2020年 

表彰名	表彰内容等
第23回環境コミュニケーション大賞優良賞	2019年9月に発行した「JFEグループCSR報告書2019」が、環境省および一般財団法人地球・人間環境フォーラム主催の「第23回環境コミュニケーション大賞」において、優良賞を受賞しました。当社の入賞は初めてとなります。「環境コミュニケーション大賞」は、CSR報告書や統合報告書、環境経営レポートなどあらゆる媒体の中でのマルチステークホルダー向けの優れた環境報告書等を表彰することで、事業者を取り巻く関係者との環境コミュニケーションを促進し、環境への取り組みを一層活性化させることを目的とした制度です。今回は、環境報告部門180点、環境経営レポート部門118点の応募作について審査が行われ、当グループは環境報告部門の優良賞25点の一つに選ばれました。表彰式は、2020年2月19日(水)に品川プリンスホテルにて開催されました。 
省エネ大賞 経済産業大臣賞	JFEエンジニアリングが提供する「多拠点一括エネルギーネットワークサービス(サービス名称「JFE-METS」、以下、同)」が、2019年度省エネ大賞の製品・ビジネスモデル部門の最高位である「経済産業大臣賞」を受賞しました。JFE-METSは、これまで一般的であった拠点単位のエネルギー最適化ではなく、事業者単位やエリア単位など、複数の拠点を一括管理しエネルギー最適化を提供するサービスです。お客様のエネルギー消費実態を分析し、お客様に代わって各拠点に全体最適となるエネルギー関連設備を配置、運営し、遠隔地も含めたエネルギー融通を実施することで、総合的に省エネを実現します。

資料名	URL	QRコード
JFEグループレポート 2020 (統合報告書)	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/2020/pdf/all.pdf	
JFEグループCSR報告書 2020 (Web版)	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/index.html	
<p>※なお、本年よりWeb版のみの開示とし、冊子の印刷・配布はいたしません、11月に印刷用のpdfファイルをアップロードする予定です。</p>		
ESGデータ集	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/esg_data/	
ITレポート 2019	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/itreport/2019/pdf/all.pdf	



JFE

Copyright © 2020 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい